

`Microcystic pattern' should be recognised as part of the morphological spectrum of solid-pseudopapillary neoplasm of the pancreas

阿部, 篤

<https://hdl.handle.net/2324/2236134>

---

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

(別紙様式2)

氏名	阿部 篤
論文名	'Microcystic pattern' should be recognised as part of the morphological spectrum of solid-pseudopapillary neoplasm of the pancreas
論文調査委員	主査 九州大学 教授 岩城 徹 副査 九州大学 教授 田口 智章 副査 九州大学 教授 森 正樹

### 論文審査の結果の要旨

膵充実性偽乳頭状腫瘍 (solid-pseudopapillary neoplasm, SPN) は若年女性に好発する比較的稀な膵上皮性腫瘍であり、充実性および偽乳頭状の腫瘍細胞増殖パターンを特徴とする。SPNは微小嚢胞構造を示しうるが、微小嚢胞性構造を取りうる他の膵腫瘍と混同される可能性がある。そこで微小嚢胞性SPNを収集し、その臨床病理学および免疫組織化学的な特徴を明らかにすることを目的とした。SPN 44例を微小嚢胞性SPN 13例 (29.5%) と典型的SPN 31例 (70.5%) に分類し、比較のため漿液性嚢胞腺腫10例を用いて、臨床病理学的解析、免疫組織化学的染色、粘液組織化学的検討を行った。腫瘍細胞の淡明化や間質の硝子化、出血は典型的SPNよりも微小嚢胞性SPNにおいて有意に多く認められた。免疫組織化学的に微小嚢胞性SPNの微小嚢胞性領域はCD10とCD56の発現がそれぞれ0%と62%であり、典型的SPNがCD10陽性87%、CD56陽性90%に比べて、有意に発現が少なかった。その他の臨床病理学および免疫組織化学的特徴 (すなわち、核のβカテニン・Eカドヘリンの核発現、プロゲステロン受容体 (PgR) の発現や、フォークヘッドボックスL2 (FoxL2) およびエストロゲン受容体 (ER)、サイトケラチンAE1/AE3 発現の消失) において、2群間に有意差はみられなかった。微小嚢胞型漿液性嚢胞腺腫は免疫染色にて異なる表現型を示し、共通性はなかった。ヒアルロニダーゼ消化アルシアンブルー染色により、微小嚢胞性SPNの粘液様間質にはヒアルロン酸が含まれていた。以上より、微小嚢胞構造はSPNの形態学的スペクトラムの一部として認識すべきであると結論付けた。

以上の成績は膵SPNの研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが概ね適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。